

高齢になり、自立した生活が難しくなった時に、介護保険サービスの利用を助けてくれる専門職がケアマネジャーだ。一人一人の状態に応じて、どんな介護サービスを使えばいいかを一緒に考えてくれる。それだけに、良いケアマネジャーとの出会いは大事だ。

(梅崎正直、写真も)

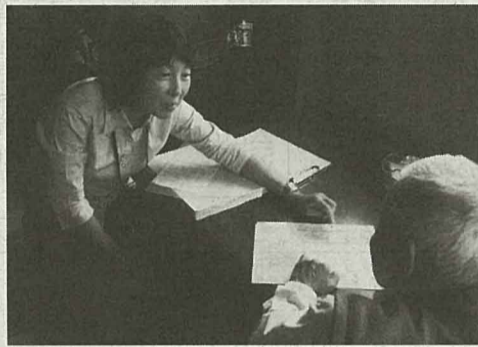
# 読み得

## 介護のツボ

川崎市麻生区の男性(82)が、ケアマネジャーと契約したのは5年前。手術を受けて体力が低下し、要介護2に認定されたため、介護保険のサービスを受けることになった。区内の介護施設「地域福祉センター金井原苑」に相談して、同施設に所属するケアマネジャーを紹介されたのだ。

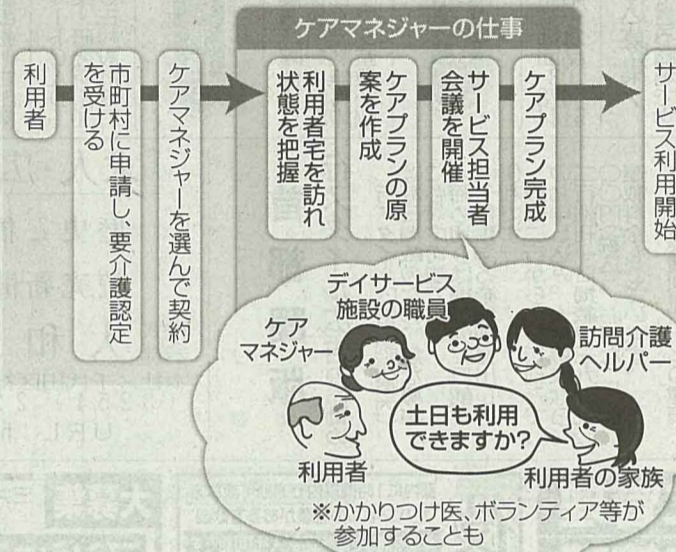
男性は、息子家族と同居しているが、昼間は一人で過ごし、食事や身の回りの管理に不安があった。そのため、ケアマネジャーの勧めで、日帰り入浴や食事のサービスなどを受けるデイサービスの施設を週3回利用し、自宅介護が難しい時に泊まりがけで数日滞在するショートステイも、随時、使うことを決めた。その後、ケアマネジャーは毎月訪ねてきては、介護サービスの利用状況を確認。昨年春からこの男性の担当になった高橋樹子さん

# 良いケアマネジャーを探す



ケアマネジャーの高橋樹子さん(左)は、男性の体調や生活の変化を確かめていった(川崎市麻生区で)

### 介護サービス利用までの流れ



は、男性が庭で転んで動けなくなったことを知ると、ショートステイの利用回数を月2回に増やした。6月に訪問した時も、高橋さんが「よく眠れていますか?」「食欲は?」などこ生活の様子を確認すると、男性は笑顔を見せた。

ケアマネジャーは、利用者ごとにどんな介護サービスがどの程度必要か、利用方針を見定める専門職だ。市町村で要介護認定を受けたら、自分のケアマネジャーを探さなければならない。頼れるケアマネジャー

# 支援センターで情報収集

は、どう見つけたいのか。介護情報サイト「親ケア.com」を運営する横井孝治さんは、まず情報の収集が大事だという。ケアマネジャーのリストは、各地の地域包括支援センターで入手できる。どの介護事業所にどんなケアマネジャーがいるのかとい

は、どう見つけたいのか。介護情報サイト「親ケア.com」を運営する横井孝治さんは、まず情報の収集が大事だという。ケアマネジャーのリストは、各地の地域包括支援センターで入手できる。どの介護事業所にどんなケアマネジャーがいるのかとい

- 良いケアマネジャーとは(横井孝治さんの話より)
- ①利用者や家族の話をよく聞き、質問に分かりやすく答えてくれる
  - ②所属の介護事業所が行わないサービスも、他事業所を紹介して提案してくれる
  - ③市区町村の福祉サービスやボランティアの活用なども勧めてくれる
  - ④連絡がとりやすく細かい相談にも乗ってくれる
  - ⑤(医療的ケアが必要な場合は)看護師の経験や専門知識・人脈を持っている

ケアマネジャー 介護支援専門員。介護保険法に定められ、要介護認定を受けた人の介護サービス利用を支援する専門職。資格取得には、介護事業所などで実務経験を積んだ後、都道府県が実施する試験に合格し、研修を修了することが必要。従事者は、2011年10月現在、全国で約14万人。ケアプラン 介護保険のサービスを受ける際に作成する、利用者ごとのサービス利用計画書。1週間にどのサービスをどのような頻度で利用するかを記載する。

もし、ケアマネジャーに不満が生じれば、代えることができる。「土日も対応できる人」「同性の人」など、希望に合う候補者を教えてもらうこともできる。神奈川県介護支援専門員協会副理事長の松川竜也さんは、「ケアマネジャーは

## 患者460万人以上 推計の1.5倍

# 認知症を 考える

我が国の認知症の患者さんの数が460万人を超えているという、衝撃的な調査結果が報道されました。これは、従来の推計のおよそ1.5倍に相当します。昨年9月、厚生労働省は、今後5年間の認知症対策の方針を示す「オレンジプラン」を発表しました。従来の推計に基づいたこのプランによると、2017年には、認知症患者さんの半数が在宅介護を受けると予測。残る半数が、特別養護老人ホームや老人保健施設などの介護施設、介護型の有料老人ホームなどの居住系サービス、医療機関で介護を受けているとされています。これは、現在の介護状況とほぼ同じ割合です。一方、精神科病院に入院している患者数は、1996年の2万8000人から2008年には5万2000人と、1.9倍に増加しています。同じ時期に、認

認知症の有病率が増える75歳以上人口も1.8倍に、特養の定員数も同じ増え方をしています。認知症患者さんの15%強が特養に、2%程度が精神病床に、という状況は現在に至るまで大きく変わっていません。最も需要がある特養は、現時点でも数十万人という待機者がいます。従来の推計で認知症患者が約1.2倍になるとされる17年時点でも、特養は10万人分しか増えません。さらに、最初に触れた推計に従えば、待機者は一層ふくらみ、待機期間も長くなるでしょう。独居高齢者や老老介護が増えている現状を見れば、さちんとした有料老人ホームや特養などに入れない人は、無理な在宅生活を続けるか、劣悪な施設に放置されるかが懸念されます。認知症に関する正確な認識も、社会情勢の変化に対する洞察もない政策は、絵に描いた餅に過ぎません。現実を見据えた対応が必要だと思っています。(斎藤正彦、都立松沢病院院長)

外出が多くなって忙しそうに見えるが、遠慮せずに困ったことは伝えてほしい」と助言する。「担当が不在でも、同じ事業所の同僚ケアマネジャーに相談すればいい。何でも相談できる存在だ」と知ってもらいたいと話す。

次回の「読み得 介護のツボ」と「認知症を考える」は7月28日の予定です。  
お便りはT104-8243 読売新聞東京本社社会保障部へ。Eメールはansin@yomiuri.com

来週は「病院の実力 小児泌尿器科」です

くらし 健康